

**参考資料3**  
科学技術・学術審議会  
学術分科会（第82回）  
令和3年2月10日

# 人文学・社会科学を軸とした 学術知共創プロジェクト取組状況等

# 人文学・社会科学を軸とした学術知統合プロジェクト

(公募名：人文学・社会科学を軸とした学術知共創プロジェクト)

令和3年度予算案：32百万円  
(令和2年度予算額：32百万円)



## 背景・課題

我が国社会や世界が転換期を迎える中、AIや生命科学などの先端領域の科学技術の社会実装、また、人間中心の社会を掲げるSociety5.0の具体化に向けて人文学・社会科学の学術知に対する期待が高まっているが、人文学・社会科学の学術知の活用にあたっては以下が課題。

人文学・社会科学の個々の専門的な研究がそれぞれに分断され、現代的な社会課題やマクロな知の体系との関連付けを得ることが難しくなっている。

自然科学による問題設定が主導する形となっているため、人文学・社会科学の研究者がインセンティブを持って協働することが難しく、また、人文学・社会科学の学問体系で蓄積された知と自然科学から発せられるニーズとの間に距離がある。

## 事業概要

未来社会が直面するであろう諸問題(「大きなテーマ」)のもとに、分野を超えた研究者等が知見を寄せ合って研究課題と研究チームを創り上げていくための場(共創の場)を整備する。このことを通じて、未来の社会課題に向き合うための考察のプロセスを体系化する。

大きなテーマ： 将来の人口動態を見据えた社会・人間の在り方 分断社会の超克 新たな人類社会を形成する価値の創造

- ・「統合イノベーション戦略2020」(令和2年7月閣議決定)  
「科研費等の研究費の措置や共同利用・共同研究体制等の整備により人文・社会科学の研究者の内在的な課題意識に基づく研究活動を支援する」
- ・「人文学・社会科学が先導する未来社会の共創に向けて(審議まとめ)」(平成30年12月)  
「人文学・社会科学に固有の本質的・根源的な問いに基づく大きなテーマの下で研究者の内発的動機に基づく提案を募り、その提案を異分野の研究者が相互に交換・議論して研究課題を形成するプロセスを尊重するプロジェクト運営を丁寧に行うことが重要」

## 令和3年度の取組のポイント

引き続き、令和2年度に採択した実施機関の取組を実施し、withコロナ下において、3つの大きなテーマにおける人文学・社会科学の研究者を軸に研究課題・研究チームを共創する場を提供し、研究課題・研究チームの構築を推進する。

## <事業スキーム>

事業規模：約30百万円/年  
事業期間：3年間  
実施機関：大阪大学



## <実施状況>

### (取組概要)

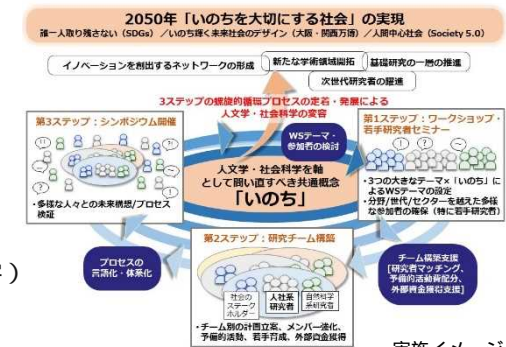
問い直すべき共通概念、あるいは議論の出発点として「いのち」を置く。「いのち」は誰もがその大切さを認め、また人間や社会の意味やあり方を探求する人文学・社会科学に深く関わる概念であるので、自然科学系研究者や社会のステークホルダーとコミュニケーションを図り、新たな学術知を共創する。

### (中心研究者)

事業総括者  
盛山和夫 東京大学名誉教授(社会学)  
プロジェクト・マネージャー  
堂目卓生 大阪大学大学院経済学研究科教授(経済思想史)  
テーマ代表者  
将来の人口動態を見据えた社会・人間の在り方  
大竹文雄 大阪大学大学院経済学研究科教授(行動経済学)  
分断社会の超克  
稲場圭信 大阪大学大学院人間科学研究科教授(宗教社会学)  
新たな人類社会を形成する価値の創造  
出口康夫 京都大学大学院文学研究科教授(近現代哲学)

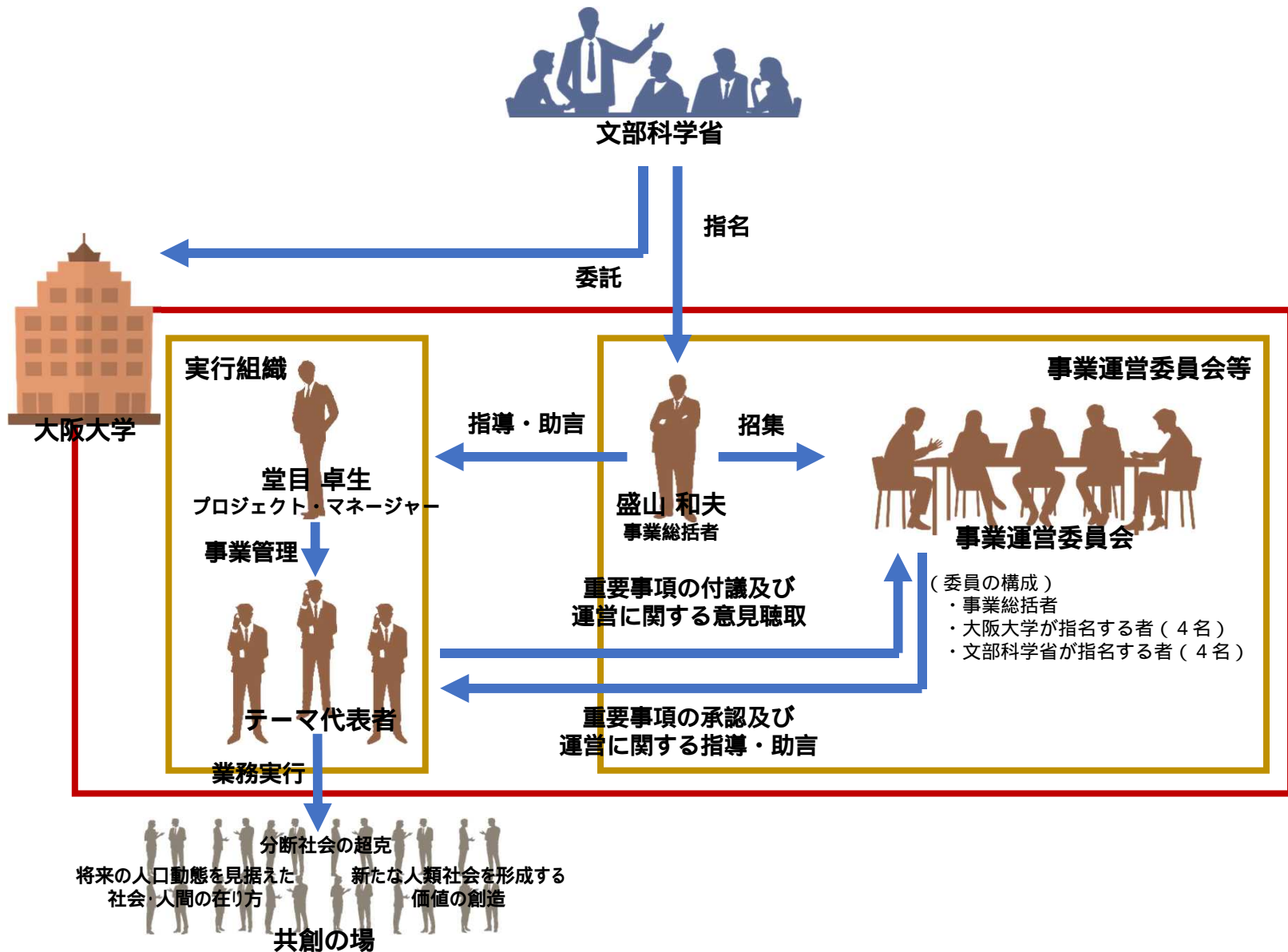
### (アウトプット)

3つの大きなテーマに対して、毎年度3つ程度の研究チームを構築  
未来の社会課題に向き合うための考察のプロセスの体系化



実施イメージ

# 「人文学・社会科学を軸とした学術知共創プロジェクト」実施体制



## これまでの取組と今後のスケジュール

---

2020年

- 5月28日 実施機関の公募（～7月17日）  
10機関から応募
- 8月13日 審査委員会の開催（実施機関の決定）  
大阪大学を実施機関として採択
- 9月29日 大阪大学との契約
- 12月22日 「分断社会の超克」ワークショップの参加公募開始  
「新たな人類社会を形成する価値の創造」ワークショップの参加公募開始

2021年

- 1月12日 「将来の人口動態を見据えた社会・人間の在り方」ワークショップの参加公募開始
- 1月24日 「分断社会の超克」ワークショップ実施
- 1月25日 「新たな人類社会を形成する価値の創造」ワークショップ実施
- 2月9日 「将来の人口動態を見据えた社会・人間の在り方」ワークショップ実施

以下予定

- 3月16日 キックオフ・シンポジウム実施

以降、ワークショップの実施状況を踏まえ、ワークショップ参加者を交えた戦略会議の開催等を通じ、研究課題・研究チームの構築に取り組む

# 事業総括者及びプロジェクト・マネージャー

---

## 事業総括者

### 盛山 和夫(せいやま かずお)

現 職：東京大学名誉教授

専門分野：社会学

職 歴：1978年 北海道大学文学部助教授  
1994年 東京大学文学部教授  
2012年 関西学院大学社会学部教授  
2012年 東京大学名誉教授  
2015年 日本学術振興会学術システム研究センター  
副所長



## プロジェクト・マネージャー

### 堂目 卓生(どうめ たくお)

現 職：大阪大学大学院経済学研究科教授

専門分野：経済思想史・理論経済学

職 歴：1989年 立命館大学経済学部助教授  
1996年 大阪大学経済学部助教授  
1998年 同大学院経済学研究科助教授  
2001年 同教授



# テーマ代表者及び今年度実施のワークショップ概要

## 将来の人口動態を見据えた 社会・人間の在り方



**大竹 文雄 大阪大学教授**  
専門：労働経済学・行動経済学

世界全体としては人口が増加して資源と生態系への圧力が強まる一方、先進国では高齢化のため社会保障や財政の問題が進むことが予想される。そうした中で、いかにして人間中心で多様性のある持続可能な社会を実現していくかが探究されなくてはならない。今回は「ワークライフバランス」をテーマとし、人口減少社会における労働政策の在り方を考える。特に、ワークライフバランスを達成するための社会制度の設計・構築に関して、多分野の研究者が横断的な議論を活発に行う「場」を作り、エビデンスに基づく政策提言につなげる研究チームの構築を目指す。

## 分断社会の超克



**稲場 圭信 大阪大学教授**  
専門：共生学・宗教社会学

今日、民意の分断、世代間の分断、階層の分断など、多様な人びとからなる社会の協働が阻害されている面がある。そうした分断の構造を捉え直し、乗り越えていくための道筋が探究されなくてはならない。このような問題意識に立ち、今回、「分断社会の超克」という大きなテーマのもと、「共感・共創・共生」をキーワードとして、分断の心理、科学と文化の分断、社会的・文化的分断という視点から、人文学・社会科学が果たしうる役割を議論し、社会変革に向けた新しいアプローチを開発する研究体制の構築を目指す。

## 新たな人類社会を形成する 価値の創造



**出口 康夫 京都大学教授**  
専門：近現代哲学・科学哲学

30年～50年後の世界では、人口動態の変化や気候変動、科学技術の更なる進展等を受け、地球規模での人類社会の価値の見直しと再創造が避けられない。こうした中、非西洋圏に属するわが国の学術知が、新たな人類社会の価値の創造にいかなる貢献をなしうるかという視点を踏まえた探究が求められている。今回は「AIと倫理」をテーマに、西洋的人間観に回収されない日本発アジア発の人間観を組み込んだ「混生」的共同体の構築の可能性について議論し、研究者のみならず社会の実務者をも取り込むことで、異分野融合に挑戦するユニークな研究チームの発足につなげたい。

## 事業運営委員会

---

委員名	所属・職名
猪木 武徳	大阪大学名誉教授
井野瀬 久美恵	甲南大学文学部教授
★ 梶原 ゆみ子	富士通（株）理事
★ 小林 良彰	慶應義塾大学SDM研究所上席研究員・ 名誉教授、ルーテル学院大学理事
★ 城山 英明	東京大学未来ビジョン研究センター教授
盛山 和夫	東京大学名誉教授
★ 羽入 佐和子	お茶の水女子大学名誉教授
三成 賢次	大阪大学理事・副学長
三成 美保	奈良女子大学研究院生活環境科学系 副学長・教授

★ 文部科学省が指名する者

# 課題設定による先導的人文学・社会科学研究推進事業

令和3年度予算案：181百万円  
(令和2年度予算額：181百万円)

JSPS運営費交付金中の推計額

## 背景・課題

我が国社会や世界が転換期を迎える中、AIや生命科学などの先端領域の科学技術の社会実装、また、人間中心の社会を掲げるSociety5.0の具体化、コロナ禍後の社会変化への対応などに向けて人文学・社会科学の学術知に対する期待が高まっているが、人文学・社会科学の学術知の活用に当たっては以下の点が課題であり、これらの課題を克服し、社会的課題に向き合う研究を促進するために、社会から提示された課題を通じ、人文学・社会科学に固有の本質的・根源的な問いを追究することが急務。

(人文学・社会科学における課題)

人文学・社会科学の個々の専門的な研究がそれぞれに分断され、現代的な社会課題やマクロな知の体系との関連付けを得ることが難しくなっている。

自然科学による問題設定が主導する形となっているため、人文学・社会科学の研究者がインセンティブを持って協働することが難しく、また、人文学・社会科学の学問体系で蓄積された知と自然科学から発せられるニーズとの間に距離がある。

## 事業概要

### 【事業目的】

本事業は、未来社会が直面するであろう諸問題（大きなテーマ）の下で、人文学・社会科学に固有の本質的・根源的な問いを追究する研究を推進することで、その解決に資する研究成果の創出を目指す。

【大きなテーマ】

- 将来の人口動態を見据えた社会・人間の在り方
- 分断社会の超克
- 新たな人間社会を形成する価値の創造

### 【予算・期間】

支援単価：20百万円程度/年（間接経費込み）

支援期間：最長6年間<sup>1</sup>

<sup>1</sup> 3年目に行う中間評価の結果に基づき廃止も想定

### 【特徴】

研究者の自由な発想に基づく研究（学術研究）の環境を維持しつつ、社会的要請等に寄与する大きなテーマを設定することで、研究課題のスケールと社会的課題に対する多様性を確保

分野における課題を総合的に突破する研究課題の推進

文科省事業<sup>2</sup>との連携による質の高い研究課題の確保

<sup>2</sup> 人文学・社会科学を軸とした学術知統合プロジェクト

### 【事業イメージ】

